

# Essay

Sapiarc.com

2008年12月20日(2008-16)

## 平成 20 年を送る

2008年(平成20年)が終わりに近づいています。この年は、経済界に大変動が起きた年として将来記憶されることになるでしょう。1929年がThe Great Depression(大恐慌)の年として、1929という年数なしに、Theの付く大文字で表される大恐慌で記憶されているのと同じように、2008年はThe Second Great Depressionが始まった年として記憶されることになるかもしれません。

平成になって、既に20年が過ぎようとしています。日本は、まだ国内だけで通用する暦の元号を使っている国として、世界的にみて稀な国です。イスラム諸国がイスラム暦にどれぐらい執着しているのかは分かりませんが、日本人にとっては、元号が時代区分として今でも意味を持っているように思います。

「我は明治の子なりけり」と歌ったのは永井荷風ですが、彼は明治12年生まれでした。明治は45年間だったので、荷風は明治よりも大正・昭和で生きた時間の方がずっと長かったのですが、彼自身の思いとしては明治の子だったのです。

私は昭和12年生まれですから、荷風の真似をして「我は昭和の子なりけり」と言って、少しもおかしくないと思います。昭和ひと桁生まれの人たちにも、同じような気持ちがあるのではないのでしょうか。昭和は実質的に62年間(形式的には64年間)にも及んだので、当然いろいろなことがありました

が、初めの約25年間には、日本はアジア太平洋戦争に向かう道を進み、大戦争に突入し、惨めな敗戦を経て、戦後には厳しい生活難の時代を経験しました。

私は8歳のときに終戦を迎えましたので、戦時中のことについてもある程度の記憶があります。当時住んでいた西宮市で空襲も経験しています。また、昭和19年、20年に、日本の陸軍や海軍の末端がどんな状況だったかを垣間見たこともあります。近くに、陸軍や海軍の兵士が大勢来ていたからです。

今年は、航空自衛隊幕僚長だった人物の書いたものが物議をかもしました。上記の私の僅かな経験に照らしても、前幕僚長の意見は一体どこから出てくるものなのか理解に苦しむところですが、自衛隊員や自民党の国会議員の中にも前幕僚長と同意見の人が大勢居ると聞いて、ただただ呆れるばかりです。

12月20日の朝日新聞に、竹山道雄著の小説「ビルマの堅琴」の主人公である水島上等兵のモデルとされる、中村一雄という方が92歳で亡くなったことが出ていました。この方は僧侶だったそうです。小説の中では、水島は、帰国する戦友たちとは行動をともにせず、自らの意志でビルマに残り、戦死した多くの日本兵を弔い続けることになっています。現実の中村氏は帰国しましたが、あとでビルマに慰霊塔を建立するなどの活動をしたそうです。ただし、私が現在持っている新潮文庫の「ビルマの堅琴」に

---

付いている、著者自身による「ビルマの豎琴ができるまで」と「あとがき」には、中村一雄氏の名前は出てきません。何らかの配慮があったのかもしれませんが。

竹山道雄氏は、私が東大教養学部に入學したとき、教養学部のドイツ語教授でしたが、私が同氏からドイツ語を学ぶことはありませんでした。「ビルマの豎琴」は終戦から僅か3年後の1948年に単行本になっていましたので、学生たちは竹山道雄の名前をよく知っていたと思います。竹山氏は、太平洋戦争が始まった昭和16年の前年に、ナチス・ドイツを批判する論説を雑誌に掲載したことがあったそうです。しかし、終戦後は、「ビルマの豎琴」を書いたために、当時威勢の良かった左翼勢力から右翼的人物として攻撃されていたようで、大学のなかでも孤立気味だったのではないかという気がします。そういうことを憶えている人も今では多くはないでしょう。

2008年12月5日には、評論家の加藤周一氏が89歳で亡くなりました。同氏の日本文化全般にわたる視野の広い発言は、昭和20年代の半ばごろから亡くなる直前まで途切れることなく続いており、極めて高いポテンシャルの持ち主でした。私は、同氏の文章は余り好きにはなれませんでした。非常に多くのことを教えてもらったという感じを持っています。とくに、「日本文学史序説」上下(ちくま学芸文庫)は驚くべき労作というしかないものだと思います。しかし、好きな本はどれかと言われると、「羊の歌」(岩波新書)を挙げます。これは比較的若いときに書かれた一種の自伝で、太平洋戦争に向かう時代のなかで、若い知識人がどのように感じていたかがよく伝わってきます。加藤氏は大正生まれなので、昭和の子ではないかもしれませんが、昭和と平成に活躍した人です。そういう人がまた一人居なくなりました。昭和が遠くなり始めています。

ゆく年や昭和の記憶うすらいで  
(おわり)